

|     |        |       |
|-----|--------|-------|
| 評価者 | 共創計画部長 | 比留間 彰 |
|-----|--------|-------|

評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

|            |  |    |       |            |
|------------|--|----|-------|------------|
| 総合計画上の位置付け | 分野   | 文化 | 施策の方針 | 文化活動の支援・推進 |
| 目標とすべきまちの姿 | 文化活動の場や機会の提供、市民の自主的文化活動や若い世代への文化活動の支援、さらに、文化施設等の連携や、市民・事業者・NPO等の連携によりさらなる文化活動の推進が図られています。文化施設は、鎌倉市公共施設再編計画基本方針に基づき整備され、文化資源が適切に整理・保存・活用されています。 |    |       |            |

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

|                       |                |       |                |       |                |       |
|-----------------------|----------------|-------|----------------|-------|----------------|-------|
| 取組を知らない・わからないと答えた人の割合 | 平成30年度(2018年度) | 17.5% | 平成29年度(2017年度) | 20.2% | 平成28年度(2016年度) | 18.3% |
|                       | 平成27年度(2015年度) | 18.9% |                |       |                |       |

(2) 妥当性

お金の使い方

|         |       |        |      |
|---------|-------|--------|------|
|         | 使いすぎ  | ちょうどよい | 足りない |
| 必要以上の効果 | 4.1%  | 1.0%   | 0.2% |
| ちょうどよい  | 12.1% | 41.8%  | 0.5% |
| 効果不十分   | 10.7% | 2.6%   | 5.0% |

平成30年度(2018年度)

お金の使い方

|         |       |        |      |
|---------|-------|--------|------|
|         | 使いすぎ  | ちょうどよい | 足りない |
| 必要以上の効果 | 8.8%  | 1.4%   | 0.2% |
| ちょうどよい  | 12.1% | 32.3%  | 1.4% |
| 効果不十分   | 11.6% | 1.6%   | 4.2% |

平成29年度(2017年度)

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

お金の使い方

|         |       |        |      |
|---------|-------|--------|------|
|         | 使いすぎ  | ちょうどよい | 足りない |
| 必要以上の効果 | 3.6%  | 1.2%   | 0.2% |
| ちょうどよい  | 10.5% | 41.4%  | 0.5% |
| 効果不十分   | 11.0% | 3.4%   | 5.3% |

平成28年度(2016年度)

お金の使い方

|         |       |        |      |
|---------|-------|--------|------|
|         | 使いすぎ  | ちょうどよい | 足りない |
| 必要以上の効果 | 4.3%  | 1.4%   | 0.0% |
| ちょうどよい  | 10.3% | 39.5%  | 0.7% |
| 効果不十分   | 10.9% | 4.1%   | 3.7% |

平成27年度(2015年度)

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

|                |            |          |           |       |
|----------------|------------|----------|-----------|-------|
|                | もっと力を入れるべき | 現状のままで良い | 力を入れなくて良い | 無回答   |
| 平成30年度(2018年度) | 13.2%      | 52.4%    | 11.2%     | 23.1% |
| 平成29年度(2017年度) | 9.5%       | 49.0%    | 16.2%     | 25.3% |
| 平成28年度(2016年度) | 13.5%      | 51.3%    | 11.4%     | 23.8% |
| 平成27年度(2015年度) | 9.9%       | 52.5%    | 12.0%     | 25.6% |

## 2 内部評価

### (1) 平成30年度(2018年度)の目標

市民が文化に触れる機会を提供するとともに、市民の文化活動の場や機会の提供、自主的な活動の支援を行う。(共創-20)  
 アーティストの文化活動、特に若い世代の支援を行う。(共創-20)  
 指定管理者との連携により各文化施設の適正な管理運営を図るとともに各施設のネットワークを強化し、市民や国内外の観光客などが鎌倉の様々な文化を体感することができる環境を整え、市民等のニーズを踏まえた事業の充実を図る。(共創-21、22、24、25)  
 鎌倉芸術館の大ホール天井改修に着手し、修繕を進める。(共創-22)

### (2) 目標とすべきまちの姿と平成30年度(2018年度)の目標との関連性

、市民が文化に触れる機会を提供するとともに、市民の文化活動の場や機会の提供、自主的な活動を支援し、また、アーティストの文化活動を支援することで、文化活動の推進を図ることができる。(共創-20)  
 、文化施設の適正な維持管理を行うことで、文化資源が適切に整理・保存・活用される。(共創-21、22、24、25)

### (3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

| 評価対象事業名 |                 | 決算値(千円)                |                        | 総事業費(千円)               |                       | 職員数(人)                     |                           | 法定受託<br>事務 | 今後の<br>方向性 |          |
|---------|-----------------|------------------------|------------------------|------------------------|-----------------------|----------------------------|---------------------------|------------|------------|----------|
| 整理番号    | 事業名             | 平成30年度<br>(2018年<br>度) | 平成29年度<br>(2017年<br>度) | 平成30年度<br>(2018年<br>度) | 令和元年度<br>(2019年<br>度) | 平成<br>30年度<br>(2018<br>年度) | 令和<br>元年度<br>(2019<br>年度) |            | 事業<br>内容   | 予算<br>規模 |
| 共創-20   | 文化行政推進事業        | 8,914                  | 8,673                  | 20,853                 | 31,383                | 1.5                        | 2.5                       | 無          | a          | B        |
| 共創-21   | 川喜多映画記念館等管理運営事業 | 36,318                 | 36,062                 | 41,890                 | 42,765                | 0.7                        | 0.7                       | 無          | b          | B        |
| 共創-22   | 鎌倉芸術館管理運営事業     | 365,752                | 1,640,308              | 388,038                | 578,561               | 2.8                        | 2.8                       | 無          | b          | B        |
| 共創-23   | 美術館建設準備事業       | 2,190                  | 2,278                  | 2,986                  | 3,229                 | 0.1                        | 0.1                       | 無          | b          | B        |
| 共創-24   | 鍋木清方記念美術館管理運営事業 | 68,496                 | 47,871                 | 74,068                 | 53,874                | 0.7                        | 0.7                       | 無          | b          | B        |
| 共創-25   | 文学館管理運営事業       | 74,022                 | 82,142                 | 79,594                 | 81,361                | 0.7                        | 0.7                       | 無          | b          | A        |

### (4) 主な実施内容

#### 【主な実施内容】

市民文化祭の開催、鎌倉こども能の実施、若手アーティストの作品展示・ワークショップなどを行うことで文化活動の場や機会の提供、市民の自主的な文化活動や若い世代への文化活動の支援を行った。(共創-20)  
 鎌倉にゆかりのある文化人・芸術家によるようこそ先達事業の実施、鎌倉文化協会及び実朝忌俳句大会の助成を行うことで、市民・事業者・NPO等の連携による文化活動の推進に取り組んだ。(共創-20)  
 文化施設の指定管理者制度による円滑な管理運営を実施するとともに、各施設の維持に努めることで文化資源の適切な整理・保存・活用を図った。(共創-21、22、24、25)  
 他部署や市以外の文化施設と定期的に会議を開催し、情報を共有するとともに連携した取り組みを実施するなど、ネットワークの強化を図った。(共創-21、22、24、25)

#### 【実施できなかった事業とその理由等】

・鎌倉芸術館屋上防水修繕については、当初想定していなかった音、臭いに対する利用者及び指定管理者側からの指摘より、1日あたりの施工量が当初の予定を大幅に下回る結果となり、年度内に修繕を完了させることができなかったため、翌年度に繰り越した。(共創-22)

**(5) 平成30年度(2018年度)の取組の評価**

|     |  |    |     |
|-----|--|----|-----|
| 効率性 | 「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか     | 適切 | 要改善 |
| 妥当性 | 「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか          | 適切 | 要改善 |
| 有効性 | 「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか           | 適切 | 要改善 |
| 公平性 | 「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか | 適切 | 要改善 |

**< 上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等 >**

- ・文化施設の維持については一部年度内に事業を完了できず次年度へ予算を繰越したものはあるものの、指定管理者による円滑な施設運営が図られたことから、効率性を適切とした。(共創-21、22、24、25)
- ・市民文化祭の開催、鎌倉こども能の実施、若手アーティストの支援など文化推進事業を実施し、市民が文化に触れ合う機会を創出できたことから、妥当性を適切とした。(共創-20)
- ・文化施設の適切な維持管理に努め、文化資源を良好に整理・保存・活用したことから、有効性を適切とした。(共創-21、22、24、25)
- ・市民文化祭や各種ワークショップの開催などにより文化活動への参加を促進し、併せて施設公開日(オープンデー)の実施により、多くの人に身近に施設に接していただくなど、特定の利用者に限らず施設をご利用いただけるよう取り組んだことから、公平性を適切とした。(共創-20、21、22、24)

**(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性**

・総合計画上で重点事業に位置付けられている「鎌倉芸術館管理運営事業」を中心とした文化施設の管理運営事業を着実に進めていくことにより、文化活動の場と機会の提供を初めとして、文化施設等の連携及び文化資源の適切な整理・保存・活用が図られることから、引き続き事業の推進に取り組んでいく。(共創-21、22、24、25)

・「文化行政推進事業」の展開により、市民・事業者・NPO等の連携や若手アーティストの発掘など、さらなる文化活動の活性化が期待されることから、今後も適切な効果を得られるよう事業に取り組んでいく。(共創-20)

**(7) 令和元年度(2019年度)の目標**

鎌倉芸術館の大ホール天井改修の施工を計画どおり進めることにより、平成29年から手掛けている施設の大規模修繕を完了させる。(共創-22)

鎌倉版フィルムコミッションを早期に制度構築し、鎌倉独自の新たな文化の発信を目指す。(共創-20)

市民が文化に触れる機会を提供するとともに、市民の文化活動の場や機会の提供、自主的な活動の支援を行う。(共創-20)

アーティスト(特に若い世代)への文化活動支援を行う。(共創-20)

指定管理者との連携により適正な施設の管理運営を図るとともに、協働イベントやPRの実施などで各文化施設間のネットワークを強化し、利用者拡大を目指す。(共創-21、22、24、25)

**(8) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性**

、市民が文化に触れることができる機会を提供するとともに、市民の文化活動の場や機会の提供、自主的な活動を支援し、また、アーティストの文化活動を支援することで、文化活動の推進を図る。(共創-20)

、 、文化施設の適正な維持管理を行うことにより、文化資源が適切に整理・保存・活用される。(共創-21、22、24、25)

### 3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

| 整理番号  | 共創-20     | 事業名       | 文化行政推進事業        |           |           |           |           | 指標の傾向   | 備考 |
|---|-----------|-----------|-----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|---|----|
| 指標の内容   | 観覧者等数(年間) |           |                 |           |           | 単位        | 人         |   |    |
| 当該指標を設定した理由   | 年次        | H26(2014) | H27(2015)       | H28(2016) | H29(2017) | H30(2018) | R01(2019) |   |    |
| より多くの市民等に文化芸術に親しんでもらうため。(H30実績内訳:文化祭32,434、ようこそ先達1,504、若手アーティスト293、子ども表彰10、こども能180、パブロバ資料展326、角野栄子さん記念上映会149) | 目標値       | 29,500.0  | 29,500.0        | 29,500.0  | 29,500.0  | 29,500.0  | 29,500.0  |   |    |
|   | 実績値       | 42,481.0  | 43,281.0        | 35,354.0  | 35,606.0  | 34,896.0  |           |   |    |
|   | 達成率       | 144.0%    | 146.7%          | 119.8%    | 120.7%    | 118.3%    |           |   |    |
| 整理番号  | 共創-21     | 事業名       | 川喜多映画記念館等管理運営事業 |           |           |           |           | 指標の傾向   | 備考 |
| 指標の内容   | 来館者数      |           |                 |           |           | 単位        | 人         |   |    |
| 当該指標を設定した理由   | 年次        | H26(2014) | H27(2015)       | H28(2016) | H29(2017) | H30(2018) | R01(2019) |   |    |
| より多くの市民等に施設を利用してもらうため   | 目標値       | 24,050.0  | 25,000.0        | 25,000.0  | 25,000.0  | 25,000.0  | 25,000.0  |   |    |
|   | 実績値       | 23,675.0  | 27,125.0        | 27,382.0  | 20,973.0  | 22,385.0  |           |   |    |
|   | 達成率       | 98.4%     | 108.5%          | 109.5%    | 83.9%     | 89.5%     |           |   |    |
| 整理番号  | 共創-22     | 事業名       | 鎌倉芸術館管理運営事業     |           |           |           |           | 指標の傾向   | 備考 |
| 指標の内容   | 施設利用率     |           |                 |           |           | 単位        | %         |   |    |
| 当該指標を設定した理由   | 年次        | H26(2014) | H27(2015)       | H28(2016) | H29(2017) | H30(2018) | R01(2019) |   |    |
| 鎌倉市の芸術文化の拠点である鎌倉芸術館の機能を十分に発揮できるようにするため。   | 目標値       | 85.0      | 85.0            | 85.0      | 85.0      | 85.0      | 85.0      | 平成29年1～9月は大規模修繕のため休館                          |    |
|   | 実績値       | 90.5      | 88.0            | 88.6      | 86.1      | 83.0      |           | 平成31年(2019年)3月～令和元年(2019年)12月は修繕のため大ホールのみ利用休止 |    |
|   | 達成率       | 106.5%    | 103.5%          | 104.2%    | 101.3%    | 97.6%     |           |   |    |
| 整理番号  | 共創-24     | 事業名       | 鍋木清方記念美術館管理運営事業 |           |           |           |           | 指標の傾向   | 備考 |
| 指標の内容   | 来館者数      |           |                 |           |           | 単位        | 人         |   |    |
| 当該指標を設定した理由   | 年次        | H26(2014) | H27(2015)       | H28(2016) | H29(2017) | H30(2018) | R01(2019) |   |    |
| より多くの市民等に施設を利用してもらうため   | 目標値       | 28,500.0  | 25,000.0        | 25,000.0  | 25,000.0  | 25,000.0  | 25,000.0  |   |    |
|   | 実績値       | 22,272.0  | 29,737.0        | 23,633.0  | 22,012.0  | 22,444.0  |           |   |    |
|   | 達成率       | 78.1%     | 118.9%          | 94.5%     | 88.0%     | 89.8%     |           |   |    |
| 整理番号  | 共創-25     | 事業名       | 文学館管理運営事業       |           |           |           |           | 指標の傾向   | 備考 |
| 指標の内容   | 来館者数      |           |                 |           |           | 単位        | 人         |   |    |
| 当該指標を設定した理由   | 年次        | H26(2014) | H27(2015)       | H28(2016) | H29(2017) | H30(2018) | R01(2019) |   |    |
| より多くの市民等に施設を利用してもらうため。  | 目標値       | 100,000.0 | 100,000.0       | 100,000.0 | 100,000.0 | 100,000.0 | 100,000.0 |   |    |
|   | 実績値       | 110,046.0 | 112,066.0       | 103,631.0 | 101,052.0 | 100,672.0 |           |   |    |
|   | 達成率       | 110.0%    | 112.1%          | 103.6%    | 101.1%    | 100.7%    |           |   |    |

### 参考 前年度外部評価結果への対応

| 課題   | 指摘への対応、コメント等  |
|--|---|
| <p>鎌倉市民評価委員会からの指摘</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者との連携により各施設の特性に適った事業かどうか問題である。</li> <li>誰でも参加しやすいような文化活動を企画し、開かれた施設運営に努めたことにより、特定の者だけに享受することのないよう取り組むことが必要である。</li> <li>受益者負担の考え方については、文化施設に限らず公共施設全般における共通の課題である。</li> </ul> | <p>引き続き指定管理者と連携を図りながら、各施設の設置趣旨に相応しい事業を推進します。</p> <p>市民文化祭や各種ワークショップの開催などにより文化活動への参加を促進し、例えば鎌倉芸術館で実施するオープンデーなどにより、多くの人に身近に施設に接してもらうなど、特定の者だけが享受することのないよう取り組んでいきます。</p> <p>施設の利用に際して、利用者に応分の負担を求めることは、利用しない者との公平を図るうえで重要であると考えます。安定した施設運営をめざし、施設の利用者に対し適正な負担となるように見直しを行ってまいります。</p> |

・鎌倉にふさわしい文化芸術の創造・発信の支援を改めて考えていくべき。鎌倉らしい「文化」としてバックアップするような施策が見えない。若い世代が、文化活動したり鑑賞できる文化的環境を充実させることが望まれる。

・各施設、指標の来館者や施設利用者数に変化があまりみられない。市民への周知がうまくいっていない印象がある。

#### 提言

・指定管理者との連携、PDCAはうまくいっているが検証されるべき。

・実施内容に「各施設のネットワークを強化」「鎌倉の様々な文化を体感することができる環境を整えた」とあるが、具体的に何を行なったかについて一切触れられていない。例えば「何々を実施することで何々を強化した」という表現で報告願う。

・市民が文化に触れる機会を提供する、支援するとあるが、以前から評価委員会で提案があるような市民は施設入館料を割引く、などの優遇制度があれば効果的なのでは。気軽に市民に文化施設に訪れたいような事業提案がほしい。

・「目標とすべきまちの姿」に掲げられているどの「姿」も非常に明確であり(施策の方針)に沿った目標であるため、それぞれどの様な「場や機会の提供」「支援」「連携」「計画に基づく整備」が行われて、それに伴い、どの様な事業を行っているかについて明記していただきたい。また、具体的に何をもち「適切」と判断できる「整理・保存・活用」を行っているのかについて もを明記して頂きたい。

鎌倉文士のほか多くの文化人の活動が現在の「鎌倉らしさ」の礎となったと考えています。こうした文化精神を継承する次世代の育成・支援が大切であることから、「鎌倉こども能」、「ようこそ先達」、「若手アーティスト支援」などの事業を実施し、若い世代が文化活動に参加しやすい環境づくりに努めているところです。今後はさらに知られざる鎌倉の文化の紹介など新たな分野における発信にも取り組み、まずは多くの市民に関心を持っていただけるよう取り組みを充実させていきます。

広報がまくらへの掲載や催しのパンフレット・チラシを作成するなど紙媒体での周知に加え、施設のホームページを充実するほか、SNSでの発信など多様なデジタルツールを活用して施設の情報が多くの人に周知されるよう努めているところです。また、文化施設間で連携するネットワークからも独自の情報発信を行っていきます。

#### 提言に対するコメント等

各施設とも市と指定管理者とで定期的に連絡会議を開催し、連携を深めています。また、毎月行うモニタリングや四半期ごとに行う実績評価を通じ実施状況を審査しています。

他部署や市以外の文化施設間で定期的に会議を開催し、情報を共有するとともに、共通のテーマに沿って各施設の学芸員が講義するなど連携したイベントの実施により、ネットワークの強化を図りました。

また、岩絵具を使用した日本画の描画や子ども達が自分で書いた絵をアニメーション化するなど各施設ごとに開催しているワークショップなどを通じて、鎌倉の様々な文化を体感することができる環境を整えました。

なお、実施内容の記述については、御指摘を踏まえ、より具体的にすよう改善します。

市内在住の小・中学生や市内在住の高齢者などについては施設利用料の減免制度があり、利用しやすい取り組みを実施しています。また、例えば鎌倉美術館で実施するオープンデーなど施設公開日の開設により、多くの人に身近に施設に接してもらう機会を提供します。

市民とそれ以外の利用者の利用料金設定については、他市等の施設の状況も参考にしながら研究するとともに、より市民が利用しやすい仕組みについて検討していきます。

鎌倉美術館の施設利用や市民文化祭等で文化活動の発表の場を提供するとともに市民等の観覧者にとっては文化に触れる機会を供与しています。

鎌倉市を活動拠点とする若手アーティストに創作や発表の場として文化施設を提供する若手アート事業の実施や鎌倉市文化協会等への補助事業を通じ、市民の自主的な文化活動や若い世代への支援を行っています。

他部署や市以外の文化施設間で定期的に会議を開催し、情報を共有するとともに、共通のテーマに沿って各施設の学芸員が講義するなど連携したイベントの実施により、ネットワーク(連携)を強化しました。

鎌倉市公共施設再編計画では、「鎌倉美術館はPFI事業導入による大規模修繕と運営の見直しを行い、他の施設は施設用途や運営方法を見直し、効率的な施設の維持管理を目指す」と位置付けられています。鎌倉美術館のPFI事業の導入は果たせませんでした。直営で大規模修繕を行うことで、再編計画に基づく整備を行っています。このように各施設が文化資源の整理・保存・活用に努めていることから、「適切」と判断しました。

「指標」の「施設利用率」としては鎌倉芸術館管理運営事業について、指標として設定した理由を「鎌倉市の芸術文化の拠点である鎌倉芸術館の機能を十分に発揮できるようにするため。」としているが、「施設利用率」が増えると何故「機能を十分に発揮できる」ようになるのか？またそれによって「文化活動の推進が図られている」と言えるのか？ただ単に「施設」を利用しているだけでは「文化活動を行っている」とは言えない、「文化活動」のために施設を利用しているかが重要である。

#### 質問

・市民文化祭の全体像が全く見えない。HPにも市民文化祭の全体像が全く見えない。HPにも全く記載が無いのはなぜか？

・各施設の市民利用優待制度の実態は？

・「文化資源」とは「施設」も含むのか？

鎌倉芸術館は、市民等に施設の利用貸出しを行い文化活動の場の機会を提供すると同時に、様々な催し物を開催することで鑑賞機会も提供しており、鎌倉市の芸術文化の拠点となる施設であり、利用率が向上することで、収益が上がり安定した運営が図られるとともに、その収益を指定管理者が行う自主事業に充当することで、優れた作品を数多く公演するなどの充実を図ることができます。こうしたことによって市民が質の高い文化事業を享受できる機会を創出することとなるため、「施設利用率」を指標としています。

#### 質問に対する回答

例年9月から12月にかけて行われる市民文化祭は、募集の時期(6月頃)からホームページ上での告知が始まり、文化祭の終了とともにホームページを閉鎖していました。今後は終了後に開催した内容についても閲覧できるよう検討します。

市内在住の小・中学生や市内在住の高齢者などについては、施設利用料の減免制度があり、利用しやすい取り組みを実施しています。市民とそれ以外の利用者の利用料金設定については、他市等の施設の状況も参考にしながら研究するとともに、より市民が利用しやすい仕組みについて検討していきます。

文化資源の定義はありませんが、有形、無形を問わず、文化財や芸能、芸術など文化の振興に資するもの全てを文化資源と考えます。よって文化の発信拠点となる文化施設もその一つであると考えています。

## 文化活動の支援・推進

### 評価できるところ

- ・鎌木清方記念美術館管理運営事業で来館者数(年度)が増加している。市民サービスの向上と効率的運営のために、指定管理者制度の積極的な活用が行われている。
- ・若い世代が自ら企画、検討した文化・芸術に親しむことができる事業等の検討はよいことと考える。旧和辻邸の活用などにより、若い世代が自ら企画、検討を行う機会などをつくっている。
- ・市民文化祭の開催、鎌倉こども能の実施、若手アーティストの作品展示・ワークショップなどを行うことで文化活動の場や機会の提供、市民の自主的文化活動や若い世代への文化活動の支援を行った。
- ・鎌倉にゆかりのある文化人・芸術家によるよこそ先達事業の実施、鎌倉文化協会及び実朝忌俳句大会の助成を行った。
- ・評価委員会からの質問や提言に対して、例示にて回答されており、わかりやすい。

|    |   | 評価の内訳 |   |   |
|----|---|-------|---|---|
| 取組 | 1 | 1     | 6 |   |
| 効果 | 1 | 0     | - | 7 |

| 委員会の評価 |
|--------|
| -      |

### 課題

- ・指定管理者との連携により各施設の特性に適った事業かどうか問題である。
- ・誰でも参加しやすいような文化活動を企画し、開かれた施設運営に努めたことにより、特定の者だけに享受することのないよう取り組むことが必要。
- ・鎌倉版フィルムコミッションを早期に制度構築し、鎌倉独自の新たな文化の発信を行っていくべき。
- ・鎌倉にふさわしい文化芸術の創造・発信の支援を改めて考えていくべき。鎌倉らしい「文化」としてバックアップするような施策が見えない。若い世代が、文化活動したり鑑賞できる文化的環境を充実させることが望まれる。
- ・主な事業の指標が来館者数であり目標値が毎年同じである。これ以上目標値は上げられないのか。
- ・市民文化祭のPR不足。広く市民に周知をお願いしたい。
- ・指定管理者との連携、PDCAはうまくいっているか検証されるべき。円滑な施設運営利用の効率化などチェックすべき。指定管理者による円滑な施設運営が図られたことから、効率性を「適切」と記述されているが、「円滑」の定義がよくわからない。

### 提言

- ・誰でも参加しやすいような文化活動を企画し、開かれた施設運営に努めたことにより、特定の者だけに享受することのないよう取り組むことが必要。
- ・鎌倉市の文化行政のあり方など根本的な部分の議論が未だ不十分であり、鎌倉にふさわしい文化芸術の創造・発信の支援を改めて考えていくべき。
- ・プロアーティストによる鎌倉芸術祭が開催されている。若手アーティストをはじめ鎌倉にゆかりのあるアーティストが一同に会する機会の支援充実を図り、鎌倉ならではの文化活動を推進する。
- ・それぞれの館間の連携を検討すべき。
- ・効果的な利用策について広く市民に改めて公募する等、検討した方がよいのではないかと？
- ・指標「文化行政推進事業/観覧者等数」の93%は「文化祭」観覧者数であるが、実績値総数はH27年度比81%と減少している。団塊の世代が70歳を超えて「文化祭に対するニーズ」が変化しているのではないかと？前例踏襲ではなく、新たな展開を検討すべきである。
- ・指標に施設の来館者数が多いが、目標値を年々増やしていないうえ、実績値もほとんど増えていない。本施策において、現状の来館者数が「目標とすべきまちの姿」に十分とは思えないが市として十分と考える根拠を示して欲しい。
- ・フィルムコミッションの設置については、藤沢のように観光協会に付託せず、三浦市の様にNPO法人により設置し、出来るだけボランティアを活用すべき。
- ・各施設の設置趣旨とそれに合わせた実施事項を示していただきたい。

### 質問

- ・「若手アーティストの支援など」とあるが具体的にどんな支援を行なっているのか。